

司式 熊田雄二牧師

奏楽 大日南苗香姉妹

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 13:1 万のものを永遠に統らす

万の物とわにしらす御父よ 今恵みを下したまえ 御名をほむる我らに アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書3 罪の告白②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。主イエス・キリストの御名によって。

アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 71 それ神はその独り子を

それ神はその独り子をたもうほどに 世を愛したまえり
 すべて彼を信ずる者の滅びずして永遠の命を得んためなり
 それ神は世を愛したまえり 世を愛したまえり アーメン

公 同 の 祈 禱 祈禱書30 聖餐式主日⑤(一つの体)

教会のかしらイエス・キリストの父なる神さま、あなたは救いの御業によって、地上にキリストの体なる教会をたて、わたしたちを招き入れて信仰の家族としてくださいました。

この恵みを心から感謝して、わたしたちが互いのために生きることができるようになりますように。願わくは、天地の全ての聖徒のまじわりが、神の家族として一つになりますように。

(エフェソ4～5、Iコリント12)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 大会渉外活動 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書11章1～13節 (新約聖書127頁)

説教・祈祷 「求めよさらば与えられん」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 54:1.2 み神の言葉をかざして進まん

- 1 御神の言葉をかざして進まん さからう悪魔は手立てを尽くし
いかにたけく 責め脅すとも
- 2 力のもとなる主共にませば 悪魔のたくみも などは恐れん
かちは常に 主の御手にあり アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 68 あまつ御民も地にある者も
あまつ御民も地にある者も 父・子・御霊の
神をたたえよ 神をたたえよ アーメン

* 祝 禱
後 奏 (黙禱)

報 告 門脇献一長老 (司会・受付 次週：古澤純一長老)

本日 受付 1階：大日南信也執事 2階：大日南隆夫執事／動画：森川莞太兄弟 録音：大日南悠兄弟
次週 受付 1階：古澤迪子執事 2階：佐藤紀子執事 / 動画：大日南信也執事 録音：雨宮信長老

I 主の祈りが教えられた場面

きょうは、礼拝でも唱えている「主の祈り」のルカ福音書ヴァージョンです。礼拝で唱えているのはマタイ福音書の方ですが、「主の祈り」を教えられた場面が、マタイとルカでは違います。マタイ福音書では「山上の説教」ですが、ルカ福音書ではイエス様が一人静かに祈っておられた時です。

「山上の説教」では、イエス様は小高い丘に登って群衆に説教しておられた場面でした。ですから、大きな声で、御自分の方から教えられたのです。それがルカ福音書では、一人の弟子が、イエス様が祈っておられる所にやって来て、祈りが終わるのを待っていたという場面ですから、大声で教えられたのではありません。御自分の方から教えたのではなく、弟子から聞かれて答えたのです。

そこで、どちらが本当かなあという思いが出て来ます。マタイ福音書では「山上の説教」という長い説教集の中に、「主の祈り」を含めています。あちこちでお話なさったことをまとめて編集しているのです。そこで、実際はルカが書いた場面だったのだけれども、マタイは説教集に編集したという可能性が出て来ます。

しかし、「主の祈り」については大切なお話だから、一回限り教えられたのではないとも考えられます。その可能性もあり得ると思えるのは、きょうの箇所です。「弟子の一人がイエスに、「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください」と言った。そこでイエスは言われた。」

これを文字通り取ると、弟子の一人に教えられたことになります。当然、一人だけに教えられたとは考えられません。「ヨハネが弟子たちに教えたように」とは、洗礼者ヨハネが弟子たちに教えた祈りの模範があったことを示しています。いわゆる「ラビの祈り」という、ユダヤ教の大先生が弟子たちに教える祈りです。

洗礼者ヨハネが弟子たちに教えた祈りを知っているのは、まずアンデレでしょう。元は洗礼者ヨハネの弟子でした。それから、アンデレの兄弟のペトロが、弟から聞いて知っている可能性があります。しかし、「一人の弟子」が、イエス様から「ラビの祈り」を教えられたと知ったなら、他の弟子たちが黙っているはずはありません。

II しつこく祈れ

そこで次の段落を見ると、5節に「また、弟子たちに言われた」とあります。すると、やはり、この場面、弟子の一人が教えを請うたけれども、他の弟子たちにも教えられたのではないかと思われれます。他の弟子たちが全員そろっていたかどうかは分かりません。他の弟子とは、十二使徒と72人の弟子が考えられます。いずれにせよ、ルカ福音書の「主の祈り」は弟子に教えられたのであり、マタイ福音書の「主の祈り」は群衆に教えられたのです。

さて、ルカ福音書に記録されているイエス様の祈りについての教えは、しつこく祈れというものです。それが、譬えで教えられます。マタイ福音書では、イエス様は、祈りの姿勢と祈り方を強調されました。「隠れた所におられる父と親しくなるように祈れ。祈る時

は、神と二人だけになれる奥まった自分の部屋で祈れ」と。これは、自分の部屋があるなしは問題ではありません。イエス様には部屋がありませんでしたが、山の上でも、湖の岸辺でも、町中でも町の外でも、どこでも祈られました。どこでも、神と二人だけの場所ができました。「奥まった祈りの部屋」があれば幸いです、なくても祈れるのです。

イエス様当時のユダヤ人は、午前9時、正午、午後3時の3回、エルサレム神殿に向かって祈る習慣がありました。偽善者の中には、その時間をねらって大通りの四つ角に立って、長く祈る姿を見せようとする者たちがいたので、ああいうことをするなど言われました。これも、誤解する人がいますが、公の場での祈りが禁じられているわけではありません。礼拝での公同の祈祷、祈祷会での祈りなどは公けの祈りです。公の場でも、人に聞かせようとするのでなく、心を一心に神に向けることと、人が分かるように祈ることが大切です。

祈り方については、異邦人のようにくどくどと祈るなど言われました。面白い発音のギリシャ語です。battalogueo=バツタロゲオー。バタバタくどくど祈る動機は、「言葉数が多ければ聞き入れられると思込んでいる」からだ、と、主は言われました。つまり、題目や念仏を唱えれば唱えるほど願いが叶うという宗教が、弟子たちの周辺にもあったようです。そういう祈りは願いが叶わないとき、唱える回数が足りないということになって、きりがないのです。

しかし、マタイ福音書にも、ルカ福音書のように、しつこく祈れという教えがないかという、あります。「パンを欲しがる自分の子供に、石を与えるだろうか。魚を欲しがるのに、蛇を与えるだろうか。」

ルカ福音書が付け加えているのは12節です。「また、卵を欲しがるのに、さそりを与える父親がいるだろうか。」そしてルカ福音書に特徴的なのが、しつこく祈れということの譬えです。

真夜中に旅行中の友達がやって来た。パンがない。さあ大変。そこで近所の友達に「パンを三つ貸してくれないか」と頼んだ。すると眠い目をこすりながら「何だよ、こんな夜中に。もう戸を閉めて子供たちが寝てるのに非常識じゃないか。」しかし、しつこく頼めば、起きて来て必要なものは何でも与えるであろう。

「何でも与えるであろう」とイエス様はおっしゃいますが、迷惑そうな友達は、パン三つくらいしか貸してくれないでしょう。貸した翌日は、返してくれと言うでしょう。それなのに「何でも与えるであろう」と言われたのは、この譬えは、天の父に祈る譬えだからです。天の父は、必要なものは何でもタダでくださるのです。

天地創造の神は、すべて造られたものに必要なものを与えておられます。空の鳥にも、野の花にも。まして人間には、それら造られたものを治めよと命じられたのですから、その働きに必要なものは何でもお与えくださるのです。

Ⅲ 求めよさらば与えられん

必要なものは何でも願う前からご存知ですから、くどくどバタバタ祈ってはいけません。9節で主は言われました。「そこで、私は言うておく。求めなさい。そうすれば与えられる。探みなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば開かれる。誰でも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」これは、マタ

イ福音書も同じです。

ただ、必要なものは何でも願う前からご存知なら、なぜ、祈れと言われるのでしょうか。祈りは、第一に神への要求ではなく、神との心の通い合いだからです。神との心の通い合いは、神中心の語りからですから、人間の方から一方的にしゃべってははいけません。まず、神が語りたもうことを聞く。それから祈るのです。

聖書を読む、説教を聴く、その御言葉を瞑想する。そうすると、御心が分かって祈るようになります。父なる神がしようとしておられることを、神の子たちも一緒にして欲しいと願っておられることが分かるのです。驚くべきことに、神の方が先に願いを持っておられます。人間を用いて神の業を実現しようとしておられるのです。

だから、主の祈りは、まず、父なる神のしようとしておられる事のために祈れと教えています。主の祈りの前半は、父なる神の御業のための祈りです。御国が完成して、御名が崇められることです。後半は、神の御業に仕えるために、私たちに必要なことを祈ります。御心を地上で行なうために必要なことです。

地上で生きるためには食べ物が必要です。体の食べ物も魂の食べ物も必要です。しかし、食べて生きるのは、地上で神の業を行なうためです。神の業は、この世を神の国としていくことで、そのためにイエス・キリストを送ってくださいました。だから、キリスト者は、キリストと同じ心を持って神に仕える必要があります。それは、赦す心と誘惑に負けない心です。

神がキリストにおいて私たちの罪を赦してくださること。ここから、地上の神の国は始まります。まず神の国と神の義とを求めよ。そうすれば、必要なものは添えて与えられる。これが、主の祈りの順番です。週報の祈りの課題がその順番になっていることは、何回か説教してきました。

きょうは、マタイ福音書の「主の祈り」ではないので、週報の祈りの順序を説明するのではなく、ルカ福音書に特徴的なことに、ハット耳をすまして聴くことにしましょう。まず神の国と神の義を求めることが、主の祈りの精神ですが、「求めなさい。そうすれば与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば開かれる。誰でも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」と、イエス様は、求めよ、探せ、門をたたけと命じておられます。

「求めよさらば与えられん」は、いろんな物や事を求めよ、探せ、門をたたけと命じておられるのです。そして、何を結局求めよと命じておられるか、これがルカ福音書は明瞭明白なのです。13節「このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」

何を結局求めよと命じておられるか。「聖霊を」求めよと命じておられるのです。「求めよ、探せ、門をたたけ」。これらを総合的に私たちの魂に働きかけて、神の国と神の義を求めるようにしておられるのは聖霊の働きなのです。だから結局何を求めよなのか。聖霊を求めよなのです。